

富士山に座りひと休み

大月の名原 特注ソファ展開

山梨経済

椅子・ソファ製造販売の名原（大月市富浜町鳥沢、名原章朗社長）は、富士山をモチーフにしたシリーズを展開している。背もたれを富士山の形にしたのが特徴で、意匠登録。世界文化遺産の登録記念で扱い始め、県内外のホテルや個人宅に納品してきた。今後は2020年の東京五輪開催に伴い、空港や宿泊施設など、外国人が多く訪れる事業所での需要を見込んでいる。

〈宇賀神将樹〉

富士山シリーズはソファ、種類。主力のソファは、座る一人掛けの椅子、ベンチ、ソファに付け足せる足置きのみ。部分に富士五湖と駿河湾の波を表す凹凸を施した。赤い見

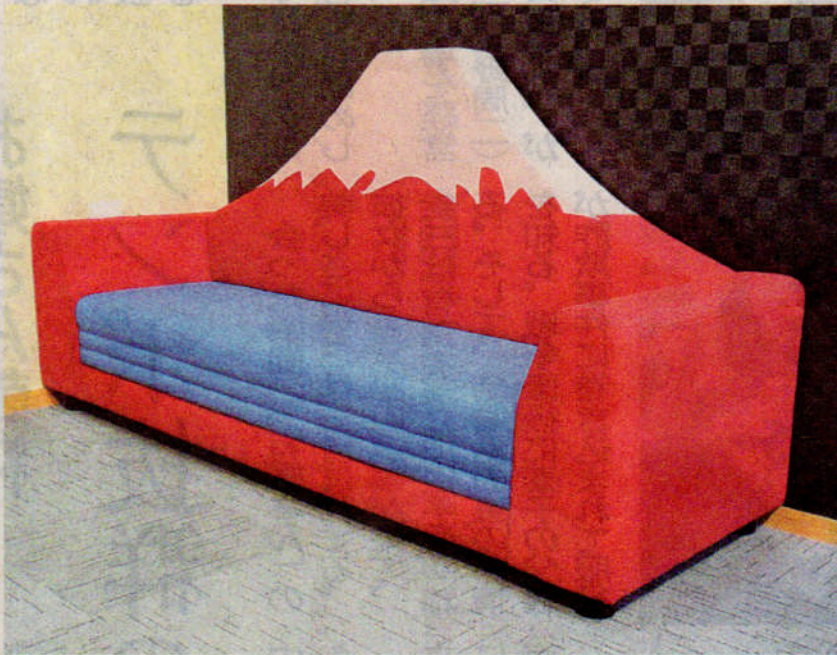
ソファと同様のデザインの子。「紅富士」版（左）もある

た目の「紅富士」版もある。生地はポリエステルなどで、クッション材はウレタンのチップ、骨組みや脚は木製。椅子とベンチの背もたれも富士山の形をしている。

人宅に販売。ホテルではロビーなどに置き、特に外国人宿泊者に好評という。個人宅は、富士山グッズを集めている女性からの注文だった。

自社工場で一貫して製造。受注後に作るため、要望に応じて大きさや形を調整できる。ソファの場合、基本の横幅は2.5程度だが、笛吹市のホテルには約6.5の特注品を納めた。

世界文化遺産登録の次に、好機と捉えるのが東京五輪。開催期間中は、海外から多くの応援者らが訪れる。名原社長は「『これぞ日本』といった見た目の製品で、たくさん外国人が行き交う場所に合うだろう」と話している。



背もたれを富士山の形にしたソファ。写真は「紅富士」版。座る部分は富士五湖と駿河湾をイメージ

